

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	東 書	(新しい書写) 106、206、306、406、506、606
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 硬筆について、第1・2学年では、とめ、はね、はらいなどの点画の書き方に気を付けて書いたり、整った文字を書くための書き方を考えたりする活動、第3・4学年では、文字の大きさと字間に気を付けて書いたり、行の中心を整えて書くための書き方を考えたりする活動、第5・6学年では、横書きの行の整え方を確かめて書いたり、場面に合わせて書く速さを考えたりする活動を取り上げている。 ○ 毛筆について、第3・4学年では、点画それぞれの書き方や筆圧に注意して書いたり、点画の長さや間隔等を考えて書いたりする活動、第5・6学年では、点画のつながりを意識して書いたり、文字と文字のつながりを考えて書いたりする活動を取り上げている。 ○ 硬筆と毛筆の関連について、第3・4学年では、点画の種類や書き方、左右の部分の組み立て方等、第5・6学年では、筆順と点画の接し方、用紙に合った文字の大きさなど、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を取り上げている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、課題を設定し見通しを持たせるとともに、第1・2学年では、「しょしゃのかぎ」(第2学年)を参考に整った文字の書き方を考えたり、画の方向や間隔を確かめながら書いたりする活動、第3・4学年では、点画の書き方について筆圧を中心に話し合ったり、「書写のかぎ」(第3学年)を参考に毛筆や鉛筆で文字を書いて確かめたりする活動、第5・6学年では、次の文字に向かう動きについて考えたことを話し合ったり、「書写のかぎ」(第6学年)を参考に毛筆や鉛筆で文字を書いて確かめたりする活動等、考えを広げたり深めたりする活動を取り上げている。 	
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列について、第1・2学年では、筆順や画の長さ、方向、つき方などを確かめた後に、文字の外形や中心を考えながら書く活動、第3学年では、毛筆について、1字の漢字の点画の書き方、筆圧を確かめた後に、2字の平仮名の送筆部分の丸みを考えながら書く活動、第4学年では、毛筆について、1字の漢字の画の長さや間隔、方向を確かめた後に、2字の漢字の筆順と字形、漢字の組み立て方を考えながら書く活動、第5学年では、文字の組立て方や配列などを確かめた後に、目的に合った筆記具を選択し様々な用紙に書く活動、第6学年では、点画のつながりや書く速さ、文字の組み立て方を確かめた後に、文字の大きさと余白、位置を考えて書く活動等を取り上げるなどの工夫がされている。 ○ 内容の分量について、第1・2学年で硬筆のみ47～50教材、第3～6学年で硬筆が25～28教材、毛筆が21～24教材。総ページ数は48～58ページであり、それぞれ前回と同量である。 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ リーフレットや実験記録の書き方等、国語や他教科における学習と関連を図った教材を掲載したり(第3・5学年)、もののかたちからできた漢字のはなしを掲載したり(第1学年)するなど、学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 当該学年の学びを他教科や学校生活に生かす単元「生活に広げよう」(全学年)、さまざまな観点から文字文化に触れるコラム「文字といっしょに」(全学年)など、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 見やすく読み間違えにくいユニバーサルデザインフォントを採用したり(全学年)、全ての児童の色覚特性に適応するようなデザインにしたり(全学年)するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、毛筆の準備や文字の書き方の動画を活用できるようにする(全学年)、話し合い活動の様子を紹介するなど、便宜が図られている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「とん」「すう」「びたっ」などの擬声語とイラストを提示している。 ○ 北海道と関わりのある内容を取り上げた資料は、掲載されていない。 ○ 「日本の文字の歴史」で、伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮している。 ○ 「持ち方・構え方」では、左利きの場合も図示しながらいねいに示している。 ○ 水書用紙を第1・2学年に用意している。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番 号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	教 出	〈小学書写〉107、207、307、407、507、607
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 硬筆について、第1・2学年では、とめ、はね、はらいなどに気を付けて書いたり、どちらの形が整っているかを考えたりする活動、第3・4学年では、「はらい」の方向に気を付けて書いたり、なぜ筆順どおりに書くことが大切なのかを考えたりする活動、第5・6学年では、用紙に対する文字の大きさと配列に気を付けて書いたり、目的に合わせて書く速さを考えたりする活動を取り上げている。 ○ 毛筆について、第3・4学年では、横画や縦画の筆使いに気を付けて書いたり、点画の接し方と間隔を考えて書いたりする活動、第5・6学年では、線と線のつながりに気を付けて書いたり、文字の大きさと配列、点画のつながりを考えて書いたりする活動を取り上げている。 ○ 硬筆と毛筆の関連について、第3・4学年では、点画の種類や筆使い、左右や上下の文字の組み立て方等、第5・6学年では、漢字どうしの大きさ、用紙に対する文字の大きさと配列など、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を取り上げている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、課題を設定し見通しを持たせるとともに、第1・2学年では、「考える」(第2学年)を参考にして画の方向の違いについて考えたり、左はらいの方向の違いに気を付けて書いたりする活動、第3・4学年では、「結び」の筆使いや形について考えたり、「ここが大切」(第4学年)を参考にして「結び」の筆使いを確かめて書いたりする活動、第5・6学年では、目的に合わせて書く速さについて話し合ったり、「ここが大切」(第5学年)を参考にしてメモの取り方について確かめたりする活動等、考えを広げたり深めたりする活動を取り上げている。 	
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列について、第1・2学年では、筆順や画の方向、長さ、つき方などを確かめた後に、文字の中心や形に気を付け書く活動等、第3学年では、毛筆について、1字の漢字の点画の書き方、筆圧を確かめた後に、2字の平仮名の筆使いに気を付け書く活動等、第4学年では、毛筆について、1字の漢字の穂先の通り道や筆圧の変化を確かめた後に、2字の漢字の筆順と字形、漢字の組み立て方に気を付け書く活動等、第5学年では、文字の組み立て方や大きさなどを確かめた後に、文字の大きさや配列を考え、工夫して書く活動など、第6学年では、文字の大きさと配列、文字の組み立て方を確かめた後に、文字の大きさと配列、点画のつながりに気を付け書く活動を取り上げるなどの工夫がされている。 ○ 内容の分量について、第1・2学年で硬筆のみ51～59教材、第3～6学年で硬筆が46～54教材、毛筆が29～42教材。総ページ数は44～62ページで、第2学年のみ前回比5%増、他の学年は前回と同量である。 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 俳句や話し合いメモの書き方等、国語や他教科における学習と関連を図った教材を掲載したり(第3・6学年)、視写の教材として国語で学習した文学教材を掲載したり(全学年)するなど、学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 身に付けた書写の力を学習活動等に生かす題材「レッツ・トライ」(全学年)、多様な文字文化への関心を高める「知りたい文字の世界」(全学年)など、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 見やすさ等に配慮したユニバーサルデザインフォントを採用したり(全学年)、より多くの人に見やすいカラーユニバーサルデザインに配慮したり(全学年)するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、学習時に参照できる運筆動画等を、ウェブサイトで見られるようにする(全学年)など、便宜が図られている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「とん」「すうっ」「びたっ」など、リズムで体感できる活動やイラストを提示している。 ○ 北海道と関わりのある内容を取り上げた資料が、第1～6学年で計2点掲載されている。 ○ 字源や身の回りの文字を扱い、興味関心を高めるようにしている。 ○ 「よい姿勢(のあいことば)」「えんぴつの持ち方(あいことば)」が掲載されている。 ○ 水書用紙を第1・2学年に用意している。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 書 写

番号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	光村	〈書写〉108、208、308、408、508、608
取扱内容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 硬筆について、第1・2学年では、とめ、はね、はらいなどの点画の終わりに気を付けて書いたり、整った文字を書くためのきまりを考えたりする活動、第3・4学年では、部分の組み立て方に気を付けて書いたり、文や文章を読みやすく書くための文字の大きさや配列を考えたりする活動、第5・6学年では、場面によって、書く速さを変えて書いたり、文字の大きさや配列を考えたりする活動を取り上げている。 ○ 毛筆について、第3・4学年では、横画や縦画等の筆使いに気を付けて書いたり、部分の組み立て方を考えて書いたりする活動、第5・6学年では、筆順と画の付き方を意識して書いたり、文字と文字のつながりを考えて書いたりする活動を取り上げている。 ○ 硬筆と毛筆の関連について、第3・4学年では、点画の種類や筆使い、左右や上下の部分の組み立て方等、第5・6学年では、点画のつながりと字形、筆順と点画のつながり等、毛筆で学んだことを生かして硬筆で書く活動を取り上げている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応について、課題を設定して見通しをもたせるとともに、第1・2学年では、整った字の書き方について見つけたり、「たいせつ」(第2学年)を参考にして画の長さに気を付けて書いたりする活動、第3・4学年では、穂先がどこを通るかを考えたり、「たいせつ」(第4学年)を参考にして「折れ」の筆使いを確かめて書いたりする活動、第5・6学年では、文字と文字のつながりが感じられる理由を話し合ったり、「たいせつ」(第6学年)を参考にして点画のつながりを意識して書いたりする活動等、考えを広げたり深めたりする活動を取り上げている。 	
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内容の構成・排列について、第1・2学年では、筆順や点画の間、画の長さ、つき方などを確かめた後に、文字の外形や中心に気を付けて書く活動等、第3学年では、毛筆について、1字の漢字の点画の種類や筆使いを確かめた後に、2字の平仮名の丸みに気を付けて書く活動等、第4学年では、毛筆について、1字の漢字の上下左右の組み立て方を確かめた後に、漢字どうしの大きさに気を付けて書く活動等、第5学年では、文字の大きさと読みやすさを確かめた後に、文字の配列に注意して、筆記具を使い分けて書く活動等、第6学年では、三つの部分をもつ漢字の組み立て方を確かめた後に、筆順と点画のつながりを意識して書く活動を取り上げるなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がされている。 ○ 内容の分量について、第1・2学年で硬筆のみ32～47教材、第3～6学年で硬筆が38～50教材、毛筆が29～45教材である。総ページ数は44～66ページで、第4学年が前回と同量、第5学年は前回比11%減、他の学年は前回比5～10%増である。 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手紙や横書きの書き方等、国語や他教科における学習と関連を図った教材を掲載したり(第3・4学年)、日常とのつながりが実感できる教材を掲載したり(第1学年)するなど、学習意欲を高める工夫として適している。 ○ 書写での学習を他教科に生かす教材「書写広げたい」(全学年)、書写で学んだことを生かして、日常の言葉や物語、短歌、俳句を書いて味わう「ことば」(全学年)など、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされ、大変よくできている。 ○ 読みやすさを考慮し独自に開発したオリジナルの教科書体を使用したり(全学年)、色覚の多様性に配慮し、誰もが識別できる配色にしたり(全学年)するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、筆使いを確かめる動画やアニメーションを活用できるようにする(全学年)、臨書姿勢をアングルを変えて示すなど、便宜を図っている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャラクターや擬態語、擬声語を活用し、直感的に筆遣いを理解できるようにしている。 ○ 北海道と関わりのある内容を取り上げた資料が、第1～6学年で計4点掲載されている。 ○ 「全国筆・紙・すみ・すずりマップ」など、伝統文化理解を深められるようになっている。 ○ 「書写体操」が整理体操も含め掲載されている。姿勢や持ち方を「唱え歌」で示している。 ○ 水書用紙を第1・2学年に用意している。 ○ 学習者用デジタル教科書の発行が予定されている。 	